

「10年のうちに得意分野をつくりなさい——
それが、山崎の教え。」

年間600件。消費税のことは、
私が一手に任されているんです」

「1人でできることっていろいろは、たかが知れていると思うんです」

植松さんは語る。

「いろんな」トができる人が周りにいる職場で働いたほうが知識も増える。詳しく知りたいなら、専門の人に聞けばいいですし……私たちの職場は、そんな環境なんです」

植松さんにとって魅力だったのは、「前職を十分に生かすことのできる」システムだった。

以前は、千葉県の労働組合で建設関係の仕事に携わっていたことから、現在は税理士の資格とこれまでの経験を生かし、「消費税」と「建設部門」を担当する。消費税の仕事は年間約600件。決算書作成の際に、消費税の処理に間違いがないかなど、内部チェックをしてゆく。

「こんなふうに、自分の経験を専門分野にしているのは、私だけではありません。さまざまな経験を積んだ人が、多方方面から30人以上集まっている。相談相手も30人以上いるわけです。多

岐にわたる組織の強みっていうのはありますね」

仕事をしながら、工夫次第でさらにスキルアップできるのも魅力のひとつだと語る。

「私たちの職場では、1人が勉強会に行つて、のちに社内の勉強会で還元するという方式をとっていますから、1人でやるよりも勉強しやすい環境が整っているんです。たとえば、外部の勉強会に参加する場合、やる気さえあれば費用は会社が出してくれます。もちろん勉強会に行つて、社内に還元するためには、もう一回、自分自身でちゃんと理解しなおさなくちゃいけないので、そこでまた勉強ができるというわけなんです」

現在の目標は、CFPの取得。「入社6年目までにとりたいと考えています。でも資格だけにこだわらたくない。資格がなくても、仕事内容で持っている人たちの上を行けばいいわけです。これから実務重視で勉強を続け、幅広い知識をつけてゆきたいです」



植松伸(46歳) 税務部門長 税理士 入社12年目

「学生のうちは、友人・知人をいっぱい増やしておいたほうがいいと思いますね。いろんな事務所の情報を知っていれば、何かと相談もできますから」